

②9 佐倉城址公園 北総を代表する照葉樹林

【概要】佐倉城址の森は林内の植生も豊かで常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、常緑樹と落葉樹が混交する林、スギ樹林帯など様々な林の姿が見られる。巨樹・古木が多いことも特徴。桜の種類も多い。

【森林の特徴と見所・歴史文化】

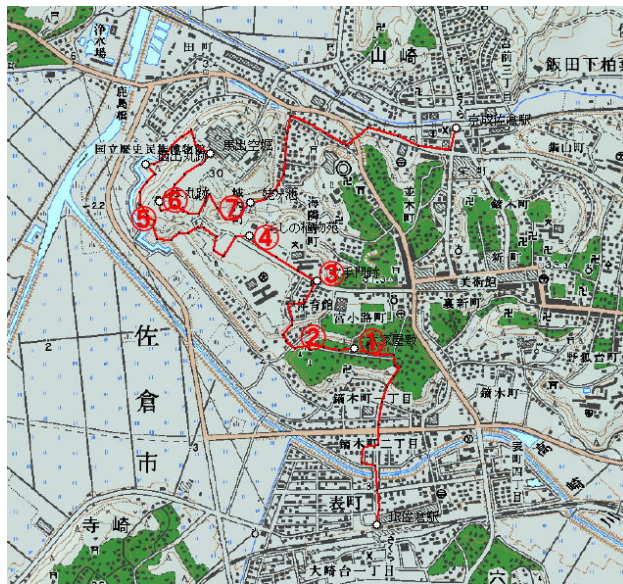
佐倉城址の森は、人為による開発の影響が少なく林内の植生も豊かで、常緑広葉樹林・落葉広葉樹林・常緑樹と落葉樹の混交林・スギ林など様々な森林の姿が見られる。中でも、城の外郭南斜面のスタジイ優占林は、北総台地の典型的な極相林型を呈しており注目に値する。また、公園内は夫婦モッコクを始め巨樹・古木が多いことも特徴で、帯曲輪や弾薬庫跡のスタジイ古木は一見の価値がある。桜の種類も多く、本丸跡を中心に花見の名所として親しまれており、本丸裏遊歩道ではオドリコソウやニリンソウの群落も見られる。

佐倉城は戦国時代に千葉氏一族が築いた中世城郭を原型として、江戸時代初期に築城された平山城である。西向きに突き出した標高 30m 前後の台地先端に位置する地勢を利用し、水堀・空堀・土塁を築いて守りを固め、東につながる台地上に武家屋敷と町屋を配して城下町とした。

以来、佐倉城は江戸防衛の東の要衝として譜代有力大名が封ぜられ、城下町も栄えた。石高は概ね 11 万石で千葉県最大の藩であった。幕末に筆頭老中としてハリスとの条約交渉に全力を注ぎ、日本を開国へと導いた堀田正睦は洋学を積極的に取り入れ、蘭方医佐藤泰然を佐倉へ招いた。彼は佐倉順天堂（順天堂大学の前身）を開き、多くの医師を育成。これにより西の長崎、東の佐倉と云われる蘭学の中心地となった。

維新後は櫓や門などはすべて取り壊され、昭和 20 年までの約 70 年間、陸軍の駐屯地となった。

城址公園の本格的な整備は昭和 54 年度から始まり、水堀の復元や本丸跡・出丸跡・三逕亭(茶室)などが整備された。その後、明治百年記念事業として国立歴史民俗博物館が昭和 58 年に開館し、現在に至る。佐倉城は平成 18 年に千葉県で唯一日本百名城に選ばれている。



【コース紹介】

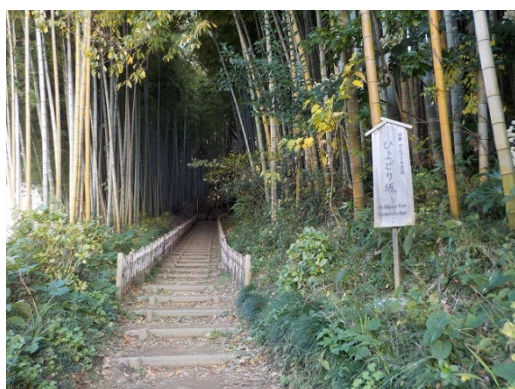
J R 佐倉駅ー彫刻通りー小沼公園・正岡子規の句碑 1ー薬師坂ー①武家屋敷ー②ひよどり坂（サムライの古径）ー③大手門跡ー④くらしの植物苑ー城址公園（陸軍兵営跡碑ー自由広場ー南斜面スタジイ優占林ー⑤帯曲輪ー西出丸跡ー本丸裏遊歩道ー兵営トイレ跡ー馬出空堀ー陸軍病院跡ー天守閣跡ー⑥夫婦モッコクー正岡子規の句碑 2ーハリス・堀田正睦像ーあずまやー⑦弾薬庫跡ー姥ヶ池ー十二階段）ー京成佐倉駅

J R 佐倉から彫刻通りを北へ向かう。高崎川沿いの小沼公園には子規の句碑がある。薬師坂から武家屋敷にかけて江戸時代の道が残っており、静かな散策出来る。孟宗竹に囲まれたひよどり坂をサムライ気分を下る。住宅街を抜けて台地へ上がり、佐倉中学校前の大手門跡石柱を見て、くらしの植物苑へ向かう。国立歴史民俗博物館の附属施設であるくらしの植物苑には日本人の生活文化を支えてきた植物が系統的に植栽されている。城址公園内は自由に散策出来るが、おすすめは帯曲輪スタジイ林から兵営トイレ跡をたどる道。時間に余裕があれば歴博に寄ってもいい。帰路は京成佐倉駅を目指す。

① 武家屋敷通り



② ひよどり坂



③ 大手門跡



④ ぐらしの植物苑前のイチョウ並木



⑥ 夫婦モッコク



⑦ 弾薬庫前のスダジイ巨木



コースで見られる主な植物等

【木本類】

スダジイ、モッコク、シラカシ、オニグルミ、ムクノキ、ソメイヨシノ他サクラ各種、ヒマラヤスギ、センダン、イチヨウ、イロハモミジ、スギ、サワラ、コブシ、ケンポナシ、ウラジロガシ、シロダモ、エノキ、ケヤキ、マテバシイ、ハリギリ、クマノミズキ、エゴノキ、アオキ、ヤブツバキ、ほか

【草本類・シダ類】

ニリンソウ、ヤマネコノメソウ、ムラサキサギゴケ、アマナ、ツルカノコソウ、オドリコソウ、ムラサキケマン、カキドオシ、ヘビイトゴ、ホウチャクソウ、ミツバツチグリ、チゴユリ、タチツボスミレほか

野外講座企画のための情報

FS 指数：2A 水平距離：5.7km 登高 109m

トイレ：ぐらしの植物苑、城址公園、歴博駐車場

昼食場所候補：城址公園、ぐらしの植物苑、(雨天時 ぐらしの植物苑または歴博無料休憩所)

安全確保上の留意点：車道で通行車両に注意

近隣の見所：武家屋敷、ぐらしの植物苑、歴博